

随筆

■混色の微妙

中嶋嶺雄（東京外国語大学教授）
国際関係論

私の父は、家業の葉局経営のかわら俳句の道を歩み、また生涯にわたって爽に丹念に日記をつけていた。俳句は、松村巨湊主宰『樹海』の最高幹部同人であったが、諸般の事情で生前に句集を世に問うことはできなかった。去る六月の父の二十三回忌までに、父の句集を刊行すること、そのためにも父が書き残した膨大な数の日記を読了することを秘かに決意していた私は、多忙な日常の合い間を縫って、郷里の松本の山荘でしばしば週末を過ごし、『晴陽句集』——人と作品』（東洋出版印刷）を刊行することができた。

ことであつた。父は、戦後の一時期、短歌にも親しんだようで、信州の短歌雜誌『朝霧』創刊号（昭和二十八年十二月）には、「なにごとも心足らざるをかへりみて人を憎まず文化の日を連ふ」「焚火かこむ男女労働者の肩越しに御ぐ乗鞍の嶺は真白し」など八首が載っている。この第一首は、父が家業にしくじって失意のときのもので、「五十余年の過去は帰らぬものなればいさぎよくゆくいばらの道を」（『朝霧』昭和二十九年二月号）と対を成し、「逆境に佇つ人心知る秋ぞ」と詠んだ俳句と同じ心境のものであろう。その父が同じ時期に「還ましき乳房のをとめ出勤の足なみかくろくホワイトの靴を」と歌っていて、父の思わぬ断面を再発見したのだが、かなりのちの『朝霧』発刊百号記念号（昭和三十一年九月号）には「歌の書を枕辺に置くを慣いとす夜毎の心やすらげくして」ほか一首が同人の代表

作のように載っていると見ると、短歌も断続的に詠んでいたようである。

『朝霧』は、亡き山村湖四郎氏が主宰した歌誌で、若山喜志子先生の『創作』の支社ようであり、父は友人の水野鈴夫氏や倉澤榮子さんの御縁で参じたのであろうが、一方、父は松本のいわば地方文化人のような存在でもあったためか、当時、松本近郊の欠の湯によく投宿されていた若山喜志子先生はしばしばわが家を訪れられた。私が中学校の一年生の頃で、水彩画が鼻展に入選しつづけていたので、その作品を褒めていただいたり、松本音楽院で鈴木鎮一先生にヴァイオリンを習っていたので、喜志子先生のままで一曲お弾きしたりした記憶もある。若山牧水未亡人というよりは、優しく上品な白髪の高背の一老婦人と言った感じであったが、きりりと引き締った眼尻の奥には理智的な瞳がいつも輝いていた。

父は晩年の闘病生活になると、さらに短歌にも精を出し、「朝日うけて新雪映ゆる乗鞍はわが病窓へ真向いて聳つ」といった歌を残しているが、私は、これらの父の短歌については、これまでほとんど顧みることがなかった。

なにしろ、松本平にゆかりの有名な歌人は、若山喜志子先生以外にも、鳥木赤彦、窪田空穂、太田水穂、土屋文明らと数多く、その歌碑もあちこちに立っていて、おのずと歌心に接することができからである。若山喜志子先生の歌では、「ふるさとの情濃を遠み秋くさのりんどうの花は摘むによしなし」が有名で、ご郷里のJR村井駅前歌碑にも刻まれているが、私には次の一首が忘れがたい。

パレットに語りつつ示す混色の微妙を今日のおそびとはする
 私自身が水彩画を今もときどき描くからであらうか。

ハ後記V

●特集ハ動物考Vは、動物を観察し歌うこと
によって、いまの人間の生き方や、歌のこと
などを考えてみようという試みです。前上野
動物園々長の中川志郎氏からは、随筆「私と
動物」の貴重な体験をお書き頂きました。ま
た評論四篇、二十四歌人の動物詠と共に、昨
年十一月号の短歌新聞で「皆で「動物」を詠
もう」と呼びかけて行われた上野動物園吟行
の報告と写真、即吟百二十九首を掲載しまし
た。

●玉城徹氏の「大正世代の歌」は、平成二年
一月号から連載されましたが、今号まで二十
次号(三月号)予告||特集・現代歌人協会賞の作家

次号(三月号)予告||特集・現代歌人協会賞の作家

●巻頭作品(25首).....秋葉四郎
●作品(13首).....鈴木英夫、島田修二、醍
醐志万子、石川恭子、御供平信、山形
裕子、中村節子、井上美地。
●作品(7首).....浜田康敬、佐々木妙二、
水野美知、碓田のぼる、桜木甚吾他。

●特集・現代歌人協会賞の作家●

●協会賞の意義.....近藤芳美。協会賞の
受賞作家達.....米嶋靖生。●作品(7首)
.....遠山光栄、塚本邦雄、真鍋美恵子、長
沢一作、倉地与年子、清水勇雄、岡野弘
彦、大内典五郎、川島喜代詩、佐佐木幸
綱、竹内邦雄、細川謙三、河野裕子、池田
純義、三枝昂之、小池光、築地正子、道
浦母都子、時田則雄、沖ななも、阿木津
英、鳥海昭子、真鍋正男、坂井修一、加藤
治郎、俵万智、米川千嘉子、辰巳泰子他。

●追悼・大悟法利雄●

●総論.....白井洋三。各論.....竹中皆二、大
坂 泰、小島宗二、石田耕三。
●思い出.....窪田章一郎、中野菊夫、片山
恵美子、谷 邦夫、倉成光一、他。
●利雄の歌.....加藤克巳、石本隆一、川崎
みや子、桜井淑、芝崎久實、高嶋健一他。
●大悟法利雄百首。◎年譜。写真。
好評連載・随筆.....大竹新助、高見沢潤
子。古代中世処々.....窪田章一郎。アラ
ラギ叢書解題.....吉村睦人。大正世代の
歌25.....玉城徹。リレー連載・わが主張
わが歌論.....関根栄子。文壇詩壇歌壇
の巨星たち15.....大悟法利雄。馬場あき子
短歌セミナー④。歌人日乗.....宮岡昇。
結社の編集部.....かぐのみ。歌壇時評.....
石本隆一。歌壇作品評.....田谷鋭。新刊
紹介.....市村八洲彦。小議会.....小野興二
郎。今野寿美、時田則雄、水原紫苑。

四回、七十二人の歌人についての執筆がおわ
り、あと宮柊二歌集「緑金の森」を残すのみ
となりました。これは次号に掲載と共に、現
代短歌全集の別巻として発刊する手筈になっ
て居りますので御期待願います。

●次号は「特集・現代歌人協会賞の作家」、
昭和三十二年第一回から三十四回までの受賞
歌人達の新作七首の発表となります。合わせ
て「大悟法利雄・追悼特集」をいたします
が、その準備中に「橋」主宰・横田専一氏の
計報が届きました。昨年からの歌壇に大切な方
達を次ぎ次ぎに失って、暗澹たる思いを禁じ
えません。謹しんで冥福をお祈り申しあげ
ます。

ご購入のしをり

- 見本一部 三〇〇円 (送料共)
 - 定価一部 四九四円 (送料六一円)
 - 六カ月分 二九七〇円 (送料共)
 - 一カ年分 五四四〇円 (送料共)
- (直接ご購入に限り六カ月分以上は送料サービス。一カ年分は一カ月分の価額がサービスになっていきます)
●ご注文の際は住所・氏名を明記し何月号から何月号までと記入して下さい。

広告

案内 本誌への広告掲載御希望の向きはお申し出下さい。広告料金表をお送り致します。

総合短歌雑誌
短歌現代 二月号 四九四円
(本体四八〇円)

平成三年 一月二十五日 印刷
平成三年 二月 一日 発行

編集人兼 石 黒 清 介
 発行人 久 木 誠
 印刷所 協同印刷株式会社
 発行所 短歌新聞社

郵便番号 一六六
 東京都杉並区高円寺南四一四三一九
 (電話) 〇三三三二二九一八五
 (FAX) 〇三三三二二九一九一
 振替口座 東京 五一一二六八三

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます